

令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果について

学 校 教 育 課

令和4年度全国学力・学習状況調査における徳島県の結果について（速報）

1. 調査の概要

○実施日 令和4年4月19日（火）

○調査方式 悉皆調査

○調査対象 小学校第6学年の児童，中学校第3学年の生徒

○調査内容

【児童生徒に対する調査】

・教科（国語，算数・数学，理科）に関する調査

小学校調査は国語，算数，理科，中学校調査は国語，数学，理科とし，それぞれ，「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。

・質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する内容

【学校に対する調査】

・質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や教育条件の整備状況等に関する内容

○本県の実施状況（公立学校のみ）

・実施学校数 237校（小学校158校，中学校79校 ※小に特別支援学校1校を含む。）

・実施児童生徒数 約10,600人（小学校6年 約5,400人，中学校3年 約5,200人）

2. 教科に関する調査結果（公立学校のみ）

平均正答率は，次のとおりであった。

校種		小学校（第6学年）				中学校（第3学年）			
教科		国語	算数	理科	総 合	国語	数学	理科	総 合
問題数		14	16	17		14	14	21	
平均正答率（%）	徳島	64	62	62		71	55	50	
	全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3		
全国順位 ※1		33	24	34	33	4	3	10	5

※1 順位については，本県独自に平均正答率から算出した値である。

3. 結果分析等の概要（小学校）

国語、算数、理科ともに正答率は全国平均を下回る結果となった。3教科において、「知識及び技能」の内容については定着がみられる。しかし、「思考力、判断力、表現力」を要する問題において課題がみられた。特に、国語、理科において、記述式の問題に課題がある。児童質問紙の中で、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均より下回っていることから、さらなる授業改善の推進が必要である。

なお、他の都道府県との比較では、令和元年度は35位（国語・算数）、令和3年度は28位（国語・算数）で、今年度は33位であった。

【小学校】

○国語

正答率が高かった問題（成果）（別紙1参照）

読みやすい文章を書くために、点画の書き方や文字の形に注意し、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができている。

学校の近くの公園をきれいにするということについて、互いの立場を明確にしながらかし合う場面の文章を読み、話し言葉と書き言葉の違いを理解することができている。また、話合いを進める上で必要なことを質問して話の中心を捉えることができている。

正答率が低かった問題（課題）（別紙1参照）

上記と同じ、学校の近くの公園をきれいにするということについて、互いの立場を明確にしながらかし合う場面の文章を読み、話合いを進める上で必要なことを質問して話の中心を捉えることはできているが、互いの立場や意図を明確にしながらかし合い、自分の考えをまとめることに課題がある。

そのため、異なる意見を自分の考えに生かしてまとめることができるよう、「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現を話合いの中で用いることができるように指導することが大切である。

○算数：

正答率が高かった問題（成果）（別紙2参照）

カップケーキが1列に7個、それが3列あり、値段が1470円と示されている場面において、カップケーキ7個分の値段を $1470 \div 3$ で求めることができる理由を記述する問題である。示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて表現できるかどうかをみる問題であり、問題場面の数量の関係に着目し、等分除が用いられると解釈して除法の計算を日常生活に生かすことができていると考えられる。

正答率が低かった問題（課題）（別紙2参照）

85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題である。示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるようにすることが大切である。もう一問は、分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ問題である。目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるようにすることが大切である。両問題に共通することは、目的に応じた問題解決を図ることである。

プログラミングに関しては、図形について示されたプログラムを正しいプログラムに書き直す問題である。図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察できるようにすることが大切である。

○理科：

正答率が高かった問題（成果） （別紙3参照）

一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を答える問題。また、メスシリンダーの正しい扱い方についても正答率が高くなっている。観察・実験において器具の名称、扱い方について丁寧な指導がされている。

正答率が低かった問題（課題） （別紙3参照）

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く問題。また、実験に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題において正答率が低かった。

このことから、観察・実験における話合いの中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見いだす場面を設定することや実験結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動を実施することが大切である。

4. 結果分析等の概要（中学校）

国語、数学、理科ともに正答率は全国平均を上回る結果となった。「知識及び技能」だけでなく「思考力、判断力、表現力」を要する問題においても、全国平均を上回る教科や項目が表れてきており、改善が見られる。生徒質問紙の中で「1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っていた。これまでの取組を検証し、更なる改善をしていく必要がある。

なお、他の都道府県との比較では、令和3年度は9位（国語・数学）で、今年度は過去最高の5位（国語・数学・理科）となった。また、対象生徒が小学校6年生の時の調査結果と比較すると、35位から5位に上昇した。

○国語：

正答率が高かった問題（成果）（別紙4参照）

行書で書いた文字について、よい点や改善点を話し合い、他者からの助言を生かして修正する場面を読んで答える問題では、漢字の行書の読みやすい書き方や漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解できている。

文脈に即して漢字を正しく書くことや助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができている。

文学的な文章を読み、事象や行為、心情を表す語句について理解できている。

正答率が低かった問題（課題）（別紙4参照）

文章作成ソフトを使って書かれた意見文の下書きと、それに対する友達からのコメントや資料を読み、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く際に、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある。

そのため、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動を設定し、引用する目的や効果について考えさせ、それを踏まえて、意見文などを書かせ、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することなどができるように指導することが大切である。

○数学：

正答率が高かった問題（成果）（別紙5参照）

同じ2つの偶数の和が4の倍数になる説明を振り返り、差が4である2つの偶数の和について予想した事柄が成り立つことを、文字を用いた式を使って説明する問題である。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が身につけている。

正答率が低かった問題（課題）（別紙5参照）

長方形の辺の長さを変えて、新たにわかることとして、ある角の大きさについて成り立つ性質を見だし、その性質が成り立つ理由を数学的に説明する問題である。問題には思考の見通しを立ててくれているが、それを用いて数学的に表現し、説明することができていない。徳島県、全国平均ともに無解答率が高い。観察や操作などの活動を通して、問題解決のために見通しを立て、それを用いて数学的に表現し、説明する活動を充実させることが大切である。

○理科：

正答率が高かった問題（成果）

（別紙6参照）

分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す問題。また、タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する問題において、正答率が高かった。

このことから、モデルで表した化学反応を化学反応式で表す力が身に付いている。また、実験において、条件制御の考え方も身に付いているといえる。

正答率が低かった問題（課題）

（別紙6参照）

日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する問題である。また、実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかみる問題である。身近な現象とを関連付けて探究する場面を繰り返し設定することや他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善する学習活動を充実することが大切である。

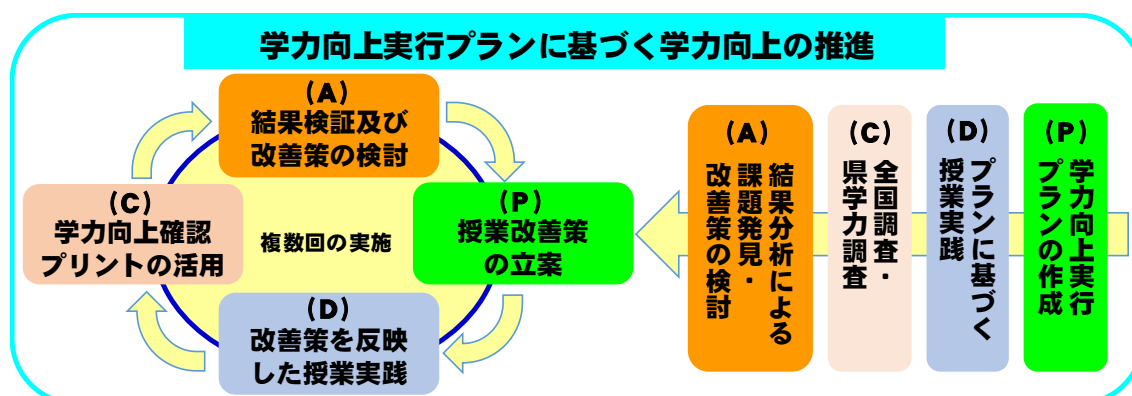
5. 対応

【課題】

「国語力向上タスクフォースの提案から」や1人1台端末を活用した授業改善は進んでいる。全国学力・学習状況調査結果においても中学校ではその成果が見られた。一方小学校においては、学習の基礎的・基本的な知識及び技能においては、一定の定着は見られるものの、それらを活用することに課題が見られる。今後、活用する力を高めるために組織的な取組をより充実させる必要がある。

【学力向上P D C Aサイクルの充実】

「徳島『未来の学び』創造プロジェクト」による学力向上実行プランをもとにした複数回のP D C Aサイクルの充実を図る。



※「徳島『未来の学び』創造プロジェクト」とは・・・

主体的・対話的で深い学びの実現による、子供たちの「確かな学力」の育成

- ①学校訪問の実施
- ②学力向上確認プリントを効果的に活用したP D C Aサイクルの構築
- ③鳴門教育大学との連携による取組

【今後の取組】

- 「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」を活かしていきながら、今回、明らかとなった課題解決に向けて、鳴門教育大学、市町村教育委員会、県教育委員会が連携し、中学校区（小・中学校）での学力向上に向けた改善を実施していく。（令和4年度は拠点校として8校追加）
- 学校訪問において、学力向上実行プランに基づいた校内での組織的な授業改善を指導助言していく。
- ICTを活用した先進事例の紹介及び効果的な取組への指導・助言を行う。

【具体的な取組】

- 小・中学校校長会との連携により、校長のリーダーシップ促進
- 今回の調査で成果がみられた学校の好事例紹介（特に小学校）
- 1人1台端末を活用した「授業づくり研修会」開催
- 「学力向上確認プリント」等の活用促進（1人1台端末から簡単アクセス）
- ICTを活用した効果的な授業事例を定期的に配信・紹介

令和4年度全国学力・学習状況調査結果（5カ年推移）

取扱注意

年度	校種		小学校					総合	中学校					総合	
	教科		国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語
	A	B	A	B	A	B			A	B					
H29	平均正答率 (%)	徳島県	75	56	79	46			78	71	67	49			
		全国	74.8	57.5	78.6	45.9			77.4	72.2	64.6	48.1			
	全国との差		+0.2	-1.5	+0.4	+0.1			+0.6	-1.2	+2.4	+0.9			
	全国順位		21	35	19	12		24	12	34	6	12		15	
H30	平均正答率 (%)	徳島県	70	54	61	50	59		77	60	69	47	67		
		全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3		76.1	61.2	66.1	46.9	66.1		
	全国との差		-0.7	-0.7	-2.5	-1.5	-1.3		+0.9	-1.2	+2.9	+0.1	+0.9		
	全国順位		30	27	44	31	36	40	6	32	5	15	13		
R元	平均正答率 (%)	徳島県	63		65				70		59			57	
		全国	63.8		66.6				72.8		59.8			56.0	
	全国との差		-0.8		-1.6				-2.8		-0.8			+1.0	
	全国順位		33		33			35	42		26			7	
R3	平均正答率 (%)	徳島県	63		70				65		58				
		全国	64.7		70.2				64.6		57.2				
	全国との差		-1.7		-0.2				+0.4		+0.8				
	全国順位		34		13			28	12		8			9	
R4	平均正答率 (%)	徳島県	64		62		62		71		55		50		
		全国	65.6		63.2		63.3		69.0		51.4		49.3		
	全国との差		-1.6		-1.2		-1.3		+2.0		+3.6		+0.7		
	全国順位		33		24		34	33	4		3		10	5	

本県の結果〔本県、全国ともに公立の値〕

※全国順位は、県教委が平均正答率から独自に算出した値

※A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

1 実施校数・人数〔公立の数〕

(1) 学校数

本県 237校（小学校 158校，中学校 79校）

全国 28,019校（小学校 18,671校，中学校 9,348校）

(2) 児童生徒数

本県 約10,600人（小6 約5,400人，中3 約5,200人）

全国 約1,859,000人（小6 約966,000人，中3 約893,000人）

2 結果公表日

テレビ・ラジオ・インターネット等
新聞

7月28日（木）17：00

7月29日（金）朝刊